

実物のアニサキスを使ったリスクコミュニケーションについて

令和7年10月に開催した「食の安全・安心ラボin日本大学生物資源科学部」（以下「ラボ」という。）において、実物のアニサキスを使って参加者とのリスクコミュニケーションを効果的に行ったので報告する。

1 背景

近年、全国的にアニサキスによる食中毒が多く発生しており、令和6年の県内食中毒発生件数では、全84件のうち30件をアニサキスが占めている。その中で原因施設が判明したのは22件あり、うち家庭での食中毒事例は8件であった。

2 目的

家族連れや学生などが多く来場するラボにおいて、アニサキスの実態や予防方法について情報を提供して意見交換を行い、家庭におけるアニサキス食中毒の防止を図る。

3 方法

- ・ ラボ当日に丸の魚を用意して来場者の前で職員が捌く実演形式で開催する。
- ・ 身や内臓におけるアニサキスの寄生状況を観察する。
- ・ アニサキスの虫体が波長365nmのブラックライトを当てると発光する特性を利用し、ブラックライトを使ってさらにアニサキスを探す。
- ・ アニサキスを取り出し、シャーレやプラスチックチューブに移し替え、展示する。
- ・ アニサキスのライフサイクルや特性、食中毒を予防するためのポイントをスライドにまとめ、教室の大画面に投影し、分かりやすく解説する。
- ・ 参加者からの質問に答え、疑問を解決する。

4 事前検討及び準備

- ・ 効果的にリスクコミュニケーションが行えるよう、事前に内容の検討と準備を行った。
- ・ 魚介類販売店から魚介類を数種類調達し、事前に保健福祉事務所実習室にてアニサキスの寄生の有無を調べた。アジ、トビウオ、サバ、スルメイカ、イワシの5種類計13尾（杯）を捌いて観察したところ、サバからアニサキスが見つかったため、ラボではサバを使うことにした。
- ・ 身や内臓に寄生したアニサキスを撮影し、内臓に多く寄生していること、身では腹側にいることが多いが、背側にもいることを啓発する資料とした。
- ・ また、調味料（酢、塩、しょうゆ、わさびじょうゆ）にアニサキスを入れ、元気に動いている様子を撮影し、調味料ではアニサキスは死滅しないことを啓発する資料とした。

5 当日の様子

- ・ 学園祭パンフレットと学校内掲示のポスターに「アニサキスを見てみよう」と題して開催時間の案内を行ったところ、その時間を狙って多くの方が来場し、関心の高さがうかがえた。
- ・ 悪天候のため学園祭自体への来場者は伸びなかったが、その分、参加者には実際にブラックライトとピンセットを使って、半身や内臓からアニサキスを探して取り出す体験をしてもらうことができた。
- ・ 参加者からは、アニサキスがどこにいるかが分かった、テレビでしか見たことがなかったので動いている本物を見ることができ感動した、対処法を学べた、百聞は一見に如かずだった等の声をいただいた。



6 アンケート結果

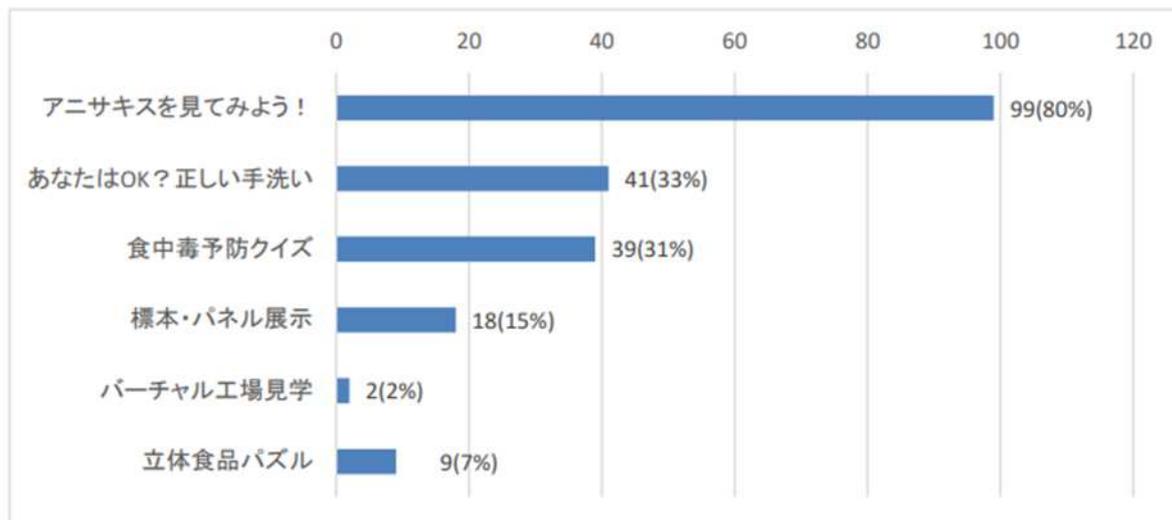
- ・ ラボ参加者 155 名のうち、124 名からアンケートの回答を得た。
- ・ 時間を限った実施であったが、「アニサキスを見てみよう」について、アンケート回答者の 80% (99 名) が良かった企画に選んでおり、好評であった。
- ・ また、「正しい手洗い体験」、「標本・パネル展示」、「食中毒予防クイズ」等の他の企画を含めたラボについて、ブースに来る前と比べて食の安全・安心の取組についての理解が、「とても深まった」が 61% (76 名)、「ある程度深まった」が 38% (47 名) であり、合計すると 99% (123 名) が深まったと回答しており、リスクコミュニケーションとして大変有意義であった。

7 まとめ

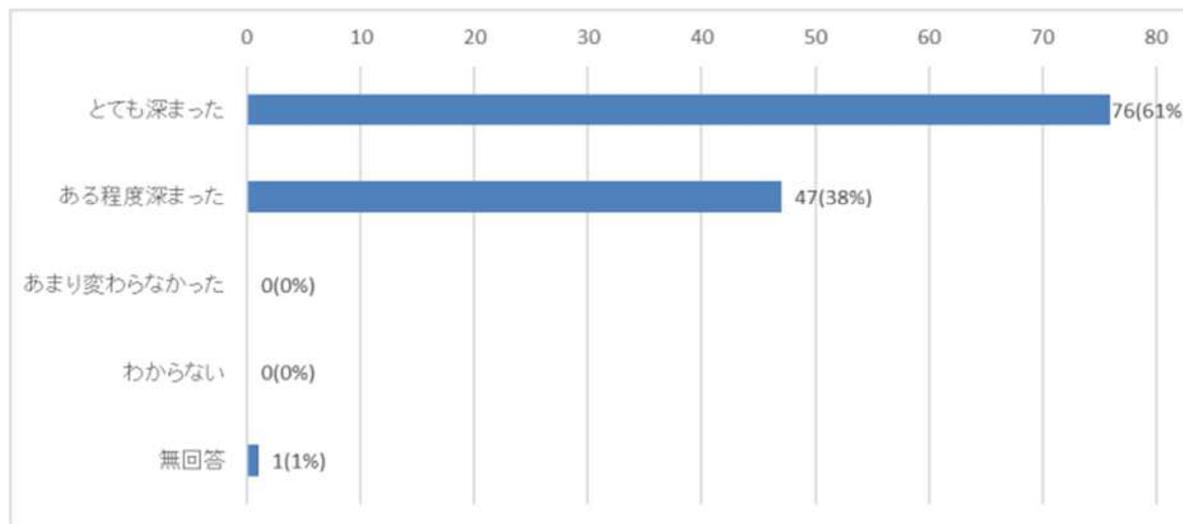
食中毒の予防方法や、県が実施している食の安全・安心への取組について、様々な年代の方に、直接、対話をしながらお伝えすることができるラボは、リスクコミュニケーションの場としてとても有意義である。今後もアンケート等からニーズを把握し、県民の皆様を知りたいテーマを取り上げていきたい。

「かながわ食の安全・安心ラボ in 日本大学生物資源科学部」アンケート結果（抜粋）

問1 当ブースについて、良かった企画を選んでください。（複数回答可）



問2 当ブースに来る前と比べて、食の安全・安心の取組みについての理解は深まりましたか。



※全体のアンケート結果は、かながわ食の安全・安心ホームページに掲載しています。